

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370101606		
法人名	医療法人 ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷なかよし苑		
所在地	岡山市北区下足守2182番地		
自己評価作成日	平成23年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370101606&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然が多い環境の為、苑の外での活動を積極的に取り入れています。また、今年は新たに苑の敷地内に畑を整備し入苑者の方が気軽に畑作業を楽しめるようにしていく予定です。
 ・入苑者が集まるホール内や居室には、リハビリを兼ねて職員と共に作ったちぎり絵やぬり絵などの作品を掲示し、アットホームな雰囲気になるように心掛けると共に、意欲の向上に努めています。また、季節感あふれる作品を飾ることで、四季を感じて頂き、明るい施設を目指しています。
 ・職員が積極的に入苑者との時間を過ごし、良好な関係を築く為、個別にコミュニケーションを図り入苑者の意見等を取り入れていけるような施設作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの特長は、利用者と職員で制作する“ちぎり絵”“塗り絵”“折紙や他の素材(中には貝殻も)を使いこなした創作画”等をリビングルームの壁や扉に貼り巡らしている。居室にも利用者で作った作品が貼ってある。このように大作、小作の中で利用者が暮らしているギャラリー風のグループホームであり、作品作りとしては岡山県一と評価しておきたい。これは職員が好きである、得意である事が必要条件であるが、全職員がその気になって実施できる事が必要である。昨年7月から新しい管理者(前から職員として勤めていた)が就任したが、全員が明るく働きやすい、何でも言える環境なので、利用者も明るく楽しめる生活が出来ていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念とグループホームの理念を事務所内に提示し、職員への周知を図っている。	このホームの理念である「利用者の歩んできた人生を尊重する」と言うことと「その人らしき生き方をしてもらう」ことを充実した作品づくりで実現している。そして皆で楽しく食事が出来る事で満足できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・苑だよりを2カ月毎に発行し、地域の方に回覧してもらうことで苑の様子を知らせている。また、季節のイベントなどへ参加させてもらったり、協力も得ている。 ・日常的な挨拶なども積極的に行っている。 (21・目標計画継続)	季節が良くなれば、ホームの周辺を散歩して近所の家並みの間を歩いて利用者は近所の人と挨拶したり声掛けをしてもらっている。ボランティアの人に来てくれるが、日常自然に近所の人との触れ合いが最高の付き合いと言える。	ホームの発行する新聞を地域の各戸に回覧してもらっているのので、その新聞に「認知症の相談は是非ホームにして下さい」とメッセージを入れて置いたらどうでしょう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議で地域の方の認知症に関する相談があれば応じることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を通じ、婦人会との交流を持つことができ、花見などの行事に参加することができた。今後もコミュニケーションをとる機会を設け協力体制の強化に努めたい。	運営推進会議に地元の会長や民生委員、婦人会の人が参加され、包括支援センターの職員も参加して報告や話し合いをしている。認知症のこと等も話し合っており、運営推進会議の効果も挙げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営上の問題が起きた場合は、その都度、市区町村担当者と連絡を取り相談や指示を仰ぎ、利用者の生活に必要な情報を得ている。 (21・目標計画継続)	岡山市の介護保険課とも連絡をして、運営推進会議への出席を依頼する事を来年度は是非実現したいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止マニュアルを作成し職員への周知徹底を図っている。	拘束や虐待など職員自身がいやなことはしないということは当たり前と考えているので、日常の職員間でも良く話し合っている。研修会等への参加もして勉強もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待についての勉強会を開き、職員への理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要があるとみられる入苑者の家族に対し、情報の提供や申請の為に支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の際にはご家族と十分な時間をとり説明をし、同意を得ている。また、質問や疑問などあればその都度説明を行う体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン更新時には本人と家族に話しを聴く機会を設け、要望等を反映できるように努めている。	家族は1ヶ月に1回以上は面会に来てくれる。利用者本人と面会をして、家族が安心してくれる事がホームにとって一番の家族の気持である。何かあればすぐに連絡して考えを求めている。糖尿病の人への食事の制限等も家族とも話し合って処置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングを月1回行うようにし、意見を聞いている。	今年度の7月から急に前管理者が退職し、急きょバトンタッチした管理者は職員とよく話し合って運営をしている。職員も話しやすいということで、色々なことで言い合いになっても、理解しあえば後は皆すっきりとする関係にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回の人事考課を行い、能力の開発や意欲の向上に努めている。 ・職員の他部署への異動希望があれば相談し適材適所で働けるよう考慮する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修への参加を促し、そこで得たものを他の職員にも伝えられるような機会を設け職員全体の知識が向上できるように努めている。 (21・目標計画継続)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会へ入会している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・新規入苑者には特に声かけなどを徹底し、苑での不安や希望などがなくないかを聴き、担当者を決めて穏やかな苑生活を送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入苑直後はご家族や本人の不安を取り除く為。こまめに連絡を取り家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入苑者の面接には管理者と介護支援専門員が行き、2名で状態把握を行う。その後、他職員と会議をし入苑までに対応を検討する体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者ができること(裁縫など)を無理のない程度でお願いし生活意欲を促し、共に生活をしている環境を作って、一方的な関係にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・イベントへの参加をお願いし入苑者と共に楽しむ時間を設けたり、定期的な面会を促しながら入苑者と家族との良好な関係を支援している。 ・入苑者の希望があれば家族との電話連絡なども積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入苑者の希望があれば馴染みの方との連絡を取れるように配慮していく。	新しい利用者が入所してきた時、早く皆さんと友達になってもらえるよう職員は色々と配慮をする。予め席を決めて置き、自己紹介等しながら職員が付いて様子を見るが、結構利用者の方が気を使って話しかけてくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入苑者全員で体操やゲームを行い入苑者同士のコミュニケーションを図り良好な関係を築いていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他の施設へ移られた場合でも身体状況や精神状況の情報提供はもちろん、入苑者の趣味や生活についても情報提供し新しい環境に早く慣れるように支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者とコミュニケーションをとり、希望や訴えを把握するように努めている。ケアプラン更新時には本人や家族と話をする機会をも設け、情報を集めている。	“利用者とのコミュニケーションを大切にす”というのが管理者の第一のモットーと見受ける。利用者とは色々な機会を見つけて、気持ちや希望を大切にしていこうとしているので期待が持てる。	管理者の意欲に期待しているが、利用者と職員の心の交わりが認知症ケアの基本として考えているので、本当の心の交わりをする為には、“利用者の見えない心”を知る努力をしてもらいたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメント時に本人やご家族等に話を聞いて情報を集めている。情報は記録し職員間で共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の状態観察を行うとともに、残存能力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画作成には本人とご家族より意見をお聞きし職員間でご希望に添えるように健闘することを心がけている。また利用者には担当職員をつけ、集中して様子を観察しモニタリングにつなげるようにしている。	利用者の生活の記録やアセスメント、モニタリング等のプロセスはしっかりと進めており、ケアプランを実践していく上で問題はないと思う。様式や記録の仕方も簡単明瞭でわかりやすい。	毎日利用者の生活状況を記述しておく事は、現在の利用者本人の情報として一番重要な記述になる。毎日の記述の他に、“今日の本人はどんな人だったのか”と言う事を書いていくのも良いのではと思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人ファイルには本人の発言をそのまま記入するなど本人のニュアンスを大切に、また表情を細かく書くことで読んだだけで状況が分かる記入の方法に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・法人と連携しながら、入苑者の多様なニーズに応じることができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・町内の花見に参加し婦人会の方たちとの交流を図った。また、スーパーやホームセンターへ買い物に外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望されるかかりつけ医と当法人の医師との連携を図り、支援していく体制を作っている。	母体のリハビリセンターの院長が主治医になっており、毎週1回の回診があり、利用者の様子をしっかりと見つめてくれるので、家族と共に安心である。看護師も巡回してくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者の変化を随時介護師に連絡し、必要があればDrと相談してもらっている。また週1度以上は勤務し状態把握に努め、アドバイスや必要な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・緊急時には職員が付き添い状況の説明を行い、また入院時には添書を作成し当日内に届くようにしている。 ・入院中も定期的に面会し情報の収集に努め、退院時にもしっかり情報交換できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入苑時には苑で定めた重度化の指針や看取りに関する指針を説明し同意を得ている。また終末期についての考えがあればお聴きする。そして重度化した際には、再度ご家族に説明をし意向を聴き対応するようにしている。	リハビリセンターへの申し込みをしている家族も居るが、家族がずっとこのグループホームで生活させたいと言う強い希望があって、本人に対して医療的措置のため入院が必要でない限り、家族の協力が得られ、医師の協力があるならば、ホームでのターミナルも有り得ると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・事故発生時や体調急変時の連絡網を作成し、また定期的に医師や看護師と連絡を取り、必要時には医師や看護師と連携が図れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災マニュアルを作成し、職員はの周知徹底を図っている。また年2回以上の消防訓練を行い円滑な誘導ができるようにスタッフ間でミーティングを行い、運営推進会議で地域の方に内容の報告も行っている。	訪問した時、スプリンクラー設備の消防竣工検査が行われていた。火災についての消防設備も完備され、年2回消火・避難訓練もしているので万全であると思う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入苑者の意思や行動を尊重し、それに対し危険がないかどうかを判断した上で、見守りながら必要なサポートに努める。 ・入苑者の過去の話等はより真摯な態度で聴くように心がけている。	排泄の自立している人は、入浴や排泄の時の脱衣は自分で出来るが、他の支援を要する人には、脱衣の時は職員の声掛けや態度にも気を付けている。中には気さくに“脱がして”と言う人も居るそうだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・普段から入苑者とのコミュニケーションを図り、本人の希望等を聴きやすい環境を整え、希望が叶えられるように職員も選択案を提示し、最後には本人が自己判断できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・苑での1日のサイクルなどはあるが、入苑者の意思や自分のペースに合わせて行動ができるように意思をくみ取りながら支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・日々の着替え等は入苑者自身の意見を聴きながら声かけし、共に準備を行っている。また入苑者の希望があれば外出して行きつけの美容院へ行けるように家族との連携を図るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・栄養のバランスを考え管理栄養士が献立を作成している。(季節感ができるようにイベント時は季節の献立である)また、入苑者の負担にならない程度の食事の片付け(食器洗い等)を手伝ってもらっている。	調理は全てホームの厨房で当番の職員が料理をつくる。献立やレシピについては母体の方の栄養士が見てくれているので、利用者も安心である。利用者と職員が全部そろって“いただきます”と楽しい食事が始まる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士の管理の下献立が作成されている。(入苑者の健康状態に応じ食事形態を検討したうえで提供。)また、毎食事後には食べた量をチェックし食事が取れているか把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・入苑者の口腔の状態や生活歴などを考慮しながら口腔ケアを行っている。また可能な限り自分でケアを促し支援、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・出来る限りおむつを使用せず入苑者の自立を支援し、トイレでの排泄ができるように誘導や声かけなどを行っている。また、失敗が減らせるように本人の排泄パターンの把握に努めている。	一人ですぐに行ける人、付き添って行く人が居るが、全員便座に座って排泄する事を基本としている。夜間トイレに行くのが危険な人には部屋でポータブルトイレを準備している人も居る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の排便チェックをし、水分量や運動量等を促し予防に努めている。また必要である場合は医師に相談の上指示の下、投薬等を行い便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・決められた入浴日に入浴してもらっているが、体調等を考慮し、日にちの変更もしている。状況により入浴が不可な場合には足浴やシャワー等で対応し不快感を与えないように努力している。	月水金の午前と午後に分けて4人ずつ入浴する。(今は一人入院中)。湯船にゆっくり入って、コミュニケーションをする絶好のチャンスである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入苑者の状況を把握し必要に応じて日中の活動を積極的に行ってもらい運動を促し、夜間良眠できるように配慮している。また疲れやすい人には午睡をとってもらおう等、個々にあった対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人記録に服薬や効能リストを記入し、服薬の状況が職員誰もが把握できるようにしている。 ・服用ファイルリストの作成もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入苑者とのコミュニケーションから本人の望む環境作りや必要に応じての材料の調達を行い、それを活かせる機会を設けるなど本人の意欲活性を促している。また入苑者全員でも楽しめるようにレクリエーションも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・健康状態や天候などを考慮した上で定期的にドライブや買い物にでかけて気分転換を図っている。また入苑者の希望があれば多少困難な場所でも家族との連携を図り希望に添えるよう努力する。	花見は婦人会の花見に合流させてもらっている。今年も又お願いするとのことであった。足守文化祭に作品を出展し見に行っていたが、大作(壁画)が作れなくなるとどうなるか？ 色々な所へも出掛けるが、ホームの周りを散歩したり、畑へ行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には金銭は預かっている。(本人の希望や家族の要望で金銭を所持している方もいる。) ・買い物等にでかけた場合は支援し見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・苑にかかってきた電話は可能な限り本人が直接会話ができるようにしている。また、要望があれば電話をかける支援も行いコミュニケーションをとれるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間には入苑者が作成した作品や季節のものを飾り付けたり楽しめるように配慮している。また、いつも利用する席には印をつけて自分の居場所が安易にわかるようにしている。	このホームは、ギャラリーと言った方が良くらい、利用者と職員で作る“ちぎり絵や折紙や塗り絵等を交えた創作画”のオンパレードである。このホームの大きな特長と言え、岡山県一番のリビングルームと言え。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブル席には自分の席が確保されており、またソファが多数ある為本人の好きなように座れるようになっている。またホールに面し各居室があるので居室のドアの開閉によりホールの様子を感じたり、1人の時間をもてるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入苑時に本人や家族と相談し、使い慣れたものを持ちこんだりしてもらい、より良い居室が作れるように配慮している。	個室にも作品が貼ってある。利用者が元気だった時に描いた絵や作品も貼ってあり、その人の歴史を思わせる部屋もあれば、その人の大作もある。このホームの居室は広く、色々な家具を持ち込んでいる部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーで車椅子でも安全に生活が送れるようになっている。各居室や生活に関わる部分には目印をつけて1人でも行動ができるように配慮し、職員も自然に関わる環境作りを目指している。		